

囲碁の言葉 その3 【先手と後手】

大和田囲碁同好会 成田 滋

八王子囲碁連盟の前身、碁老連の目的が変わります。「ボケ防止のために、老人囲碁同好者の誰もが碁を楽しむ事出来るように機会と場所を確保する」というユーモラスな目的を標榜していきます。惚けとか痴呆、認知症という用語が広まってきたことがその背景にあるようです。高齢化社会がますます進行する時代です。「ボケ防止はどうしたら実現するのか、そのためにはどしどし囲碁を打とうよ!」というのは間違いではないですね。

---- 【先手と後手】 -----

将棋は指す、囲碁は打つ、と言います。逆の表現はありません。囲碁では先手が黒石を持ち、後手が白石を持ちます。対局に先だって、先手と後手を決めるとき、囲碁ではニギリが行われます。囲碁では先手が有利なため、後手に一定量の地として「コミ」として六目半を加算します。これはハンディのことで

対局において、盤上のある箇所に打つと大きな得をする手段が残る場合があります。通常相手はそれに受けます。そうしないと大損をするからです。先の対局者の着手を先手という。相手は、先の対局者に得をさせない着手で応じます。この着手を後手で受けるといいます。「先手をとる」とか「後手をひく」などの言葉ですね。



前者は「機先を制す」「先に動く」、後者は「先を越されて受身になる」などの意味となります。石を取るか取られるかの戦いなどの場合、互いに手を抜けずに相手の着手の近くに着手することを繰り返します。その最後の着手を「後手を引く」といいます。先手を打たれても、大きな損をしないと判断すると、「手抜きする」こともできます。「手を抜く」ともいいます。

「先手必勝」「早い者勝ち」「先んずれば人を制す」といった慣用句があります。人よりも先にものごとを行えば、有利な立場に立つことができる、という教えです。戦いの局面で相手よりも先に攻撃を仕掛ければ、必ず勝てると考えられました。「先手」は相手よりも先に戦いを始め、出鼻をくじくことによって局面を有利にするといわれてきました。ですが、ロシアのウクライナ侵略の戦いはどうでしょうか。「出鼻をくじかれた」ような展開が続いています。太平洋戦争でもミッドウェイ海戦では先に攻撃を仕掛けたのですが、散々な結果に終わりました。情報合戦で遅れをとっていたからです。

野球の場合はどうでしょうか。野球には先攻と後攻があります。プロ野球では勝率は後攻の方が僅かに高いようです。その理由として考えられるのは、ホームゲームは全て後攻ということです。ホームゲームは応援が多くなることだけでなく、いつも使用している球場ということで、プレーもしやすく、有利であるということが言えるでしょう。

サッカーには「7-2-1の法則」と呼ばれるものがあります。先取点さえ取れば、「7割」はその試合に勝利し、「2割」は引き分けになるということです。さらに、逆転負けは「1割」しかしないのです。サッカーには、こんな確率があるのです。サッカーは「先手必勝」ですね。

というわけで囲碁の世界でも先手が有利なので6目半というハンディをつけます。

2023年3月1日